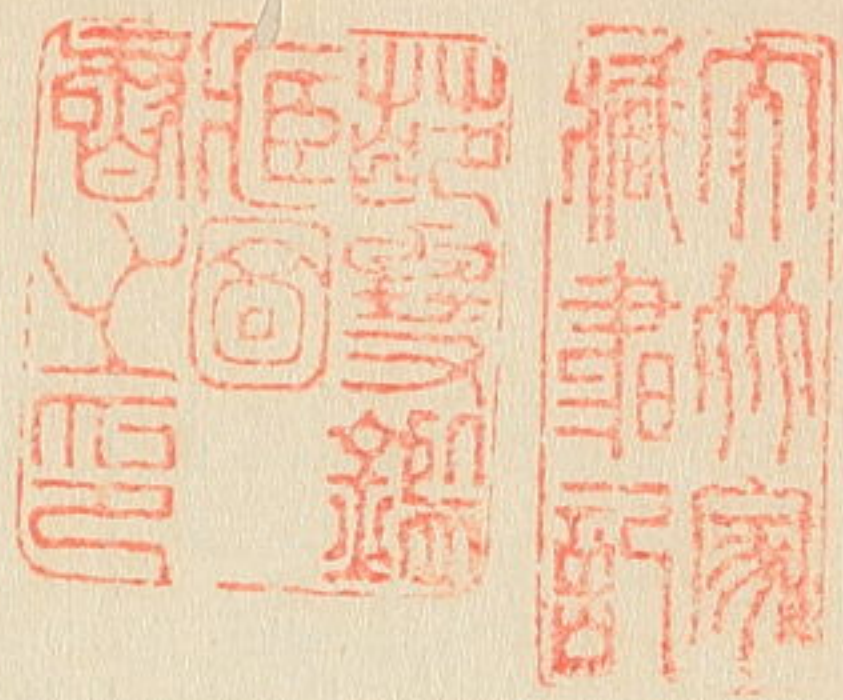




俳諧傳書





目次

一 俳諧初	一 三意	一 四妙
一 宗匠二字	一 権瓦傳	一 安らむら傳
一 貞徳傳	一 兎角二字	一 文其まの
一 真狂連系	一 夕まの傳	一 うららかに傳
一 連歌神	一 俳諧折の名秘	一 糸の名
一 藪勺三傳	一 鶯の傳	一 黄鳥の傳
一 俳諧忌	一 三のまの字	一 五のまの字
一 下紅の傳	一 七のまの字	一 武留大秘
一 不二の傳		
一 左のまの傳		
一 平向草		
一 三の傳		
一 七柏		

- 一 新ふ旅のなき旅
- 一 吾の雲のこゝろ
- 一 四道
- 一 吾まきまつふ侍
- 一 老らく侍
- 一 連歌五々の職相取
- 一 春林のる
- 一 眼のこゝろをさる侍
- 一 眼のこゝろをさる侍

一 俳諧始

人皇百八代後陽成院御宇慶長六年辛丑十月廿百清水大忌闇ニ獲句

淨帽子の凜痛形り今名のお空 三十職 徳

貞徳歌名法印玄音の御慶長三年八月詔諸道宗匠史評

一 宗匠二字 宗ハ宗也論ハ禪宗天台宗ト云カ如シ俳諧ノ宗ナリ匠ナリ

其句ヲユミ作レ依テ宗匠ト云 慶長六年十月廿百定

一 貞徳傳 父攝州高槻城主石川頼基永種嫡孫 墳鳥羽石室山実相寺 母下冷泉妙壽院妹 兼應二癸巳年冬ニ終享年八十歳

幼名勝熊明心居士ト号 其他道庭軒 田陀庵 長改庵 花咲翁

一 真連歌ハ今連歌 狂連歌人ナリ俳諧

一 連歌ノ神 立水即水也且天満宮御双眼ト云

秘決書

一 爰句三昧之事

大脉 文 具取

初大休ちりしをえあ守り宿の文宿之

一 三三言ノ事又三易ト書ヘシ

句ノ心言意同トク姿替ハ一ツ。句ノ言意姿同トク心ノ替ハ一ツ。句ノ姿心同トク言葉ノ替ハ一ツ。

一 四妙ノ事 中一毫ノ妙 中二句ノ妙 中三文字ノ妙 中四始終ノ妙

一 俳諧点権樂四 楚圈珍重長 唐楚仙長老曼三刻ヲ掛ケ 唐美ノ点ヲ加フ

一 塩尻ト云傳 塩を入る筑の如キモノニタトヘタリ

一 ありむ傳 驟アヒ村駒とて強アヒ井と名の流る子路しと云心之駒たふ

一 下紅雲傳 落く稀るる心 一休下ノ字ハ心心タあり

一 鬼角ノ二字 万葉ニ在右ト書

一 文世堂業二本ハ雌業雄業ノ

一 不二雪雞ト云傳 四時ニ雪落さる程の大山ハ日本規模トシ 二条禪院ノ 仰ナリ

一 夕マまマの傳 夕マの字依名ニ書ヘシ是ノ字マ

一 くらさウラの傳 心ノ字也雜落のくらさウラしたとウラなるウラに

一 石川屋を伝 小男屋のいる神ノ甚そ石川屋を 人丸 是ウラなり

一 俳諧折ノ名秘 初折依保姫也 二折美守姫也 三立四姫折

一 四折姫ノ折 歌仙ハ歌仙ハ句四ハ四ハ句有七十二候ニ折端月花紋所

ニ折折節ノ替ハ心ヲス一し添氏ハ月花端ノ紋所ニテ夢ノ浮橋ノ心スハ一折 百首ニハナシ

一花ノ名 初ノ花是葉花ト云宝色トセスニテ折茶花 三折盛花 四折白花

百身花四本 又八本ニモスルナリ 素秋四重ニ斗スルナリ 此古式

一手向草 杏ト云四季若キ色カ人又木故ニ云カ

一龍ノ草 龍ト云ハ生類 椿ト云ハ生類ニ非ス 秋斗

一黄昏 誰渠ノ心人倫ヲ越ニ母の心ハ古法

一三照 鳩照 柳ノ草 科照 山ノ草 柳照 本海ニ有

一三ツ虫文字 見居セバ 世の中ノ 中ノ子

一五ツ手ノ草 心ハキヤ、丁折ナレ、折ナレ、折ナレ、折ナレ、折ナレ

一七柳 又十二本 玉柳 水中 柏散 月口 岩戸柳 神通 占柳 三綱柳 勢ノサハラ

青柳 朝ノ名 柳掌 迎柳 送柳

一エタノタエタ 萬葉ニ浮沈セ 實浮動於豫

一哉多ノ大和

落着 神木ハタリトキトクニ有 神ノ心

深堂 筆ニシテ結ム、又カノ草出ルハ 宗禮

浮 若水ノ草を鏡ノ如ク式 草葉

願 心ノ此木賦、心ノ草ノ里ノ心

願 心ノ此木賦、心ノ草ノ里ノ心 草水

願 草ヲ越サレ川ノ舟トシテ 如鼓

願 五月雨ノ舞、心ノ草ノ里ノ心 三寸花

願 心ノ草ノ里ノ心ノ草ノ里ノ心 如鼓

あうたが

まの口はあうたが

全

痛みのハ重きあき信世の

全

沈むが

世の事の仲は候あき信

病中  
全

現をが

膝のあき信

湖  
春

月夜より片よみぬ心

如  
鼓  
庵

そのりふはあき信

三  
丁  
庵

腰の

且夕よりあき信

如  
鼓  
庵

福のりも西よはあき信

三  
丁  
庵

かしの

花を重なるくもあき信

手紙

川きい候あき信

感心の

るの候あき信

不届の

あき信

有心の

あき信

五去の

あき信

十一の

あき信

あき信の書  
あき信の書  
あき信の書

あき信の書

如  
鼓  
庵

あき信の書

三  
丁  
庵

甲の

一 秋の秋のふるしね

邦子と山宗祇の為書撰押紙

長原系

長嶋子孫の筆に其正 佐

是世のふるしねの心写し 邦子の偽りなき

一 吾嘗と斗の月ふるしね 久米の月ふるしね  
 月と長嶋のふるしね 下信の心写し  
 月ふるしね 月ふるしね 又長嶋のふるしね  
 月ふるしね 月ふるしね 又長嶋のふるしね  
 月ふるしね 月ふるしね 又長嶋のふるしね  
 月ふるしね 月ふるしね 又長嶋のふるしね

一 四道

一 青きふるしねの信

青きふるしね

椿のふるしね

須

榮り

洋

照らす

添

才

對

日月の信

一 青きふるしねの信

一 老らくの信

老らくの信

來んとふるしねの信

一 建部五ヶ賊物

一 山路木彫人

山

山に伊勢の匠より木彫る 船玉は伊勢の人

一 素秋の事

本式名録に表す 素秋の事

素秋の事 素秋の事 素秋の事

一 眼のふるしね

上之七又字のふるしね

一 眼

眼のふるしね

眼のふるしね

眼のふるしね

一 眼のふるしね

眼のふるしね 眼のふるしね

眼のふるしね 眼のふるしね 眼のふるしね

と天由と云ふ所の別處なり 又吾の所の所の解子の必るは此字を以て  
是し 晩の涼きん松の下蔭 ぞとこ



